

環境政策・計画学科 3 回生は、下記のように卒業研究論文着手発表会を開催します。
 関心がある方はどうぞご参加ください。

日時：2012年 1月18日(水) 10:40～
 1月20日(金) 10:40～
 場所：交流センター研修室1～3

1月18日(水)

◆10:40～

1	田代 尚義	井手	水道事業統合による水道料金の格差是正に関する研究
2	中川 紗央里	井手	「冒険遊び場」における危機管理のあり方に関する研究
3	中山 宗行	井手	河川空間におけるオープンカフェ経営に関する研究□河川敷地占用許可準則の特例措置による社会実験を事例として—
4	井上 はづき	林	広告活動における媒体組成の変化による環境負荷削減効果の検証
5	堤 侑加	林	各世代における買い物袋持参率向上要因の分析とレジ袋削減に向けた方策の提案
6	堀井 宏祐希	林	家庭部門における省エネマネジメントの効果的な設計と普及手法の提案□「うちエコ診断事業」を対象として—
7	中島 実咲	松本	ごみ有料化と分別回収の家庭系ごみ減量効果の差異に関する定量的分析

◆休憩

8	柴山 浩太	香川	住民の認知度上昇に向けたハザードマップの普及策への提案□滋賀県東近江市の河川周辺を対象として—
9	竹内 緑	香川	衣類のリユースシステムにおける立地戦略の提案 —フリーマーケットを事例に—
10	辻村 美紀	香川	京都市都心部における放置自転車問題の実態とその原因の究明
11	廣田 怜	香川	フードバンクによる人道支援を兼ねた食品廃棄量抑制の可能性についての研究
12	飴村 紘造	金谷	工場での廃木材の分別処理・リサイクルの現状把握と、分別処理の効果的施策提案 ～木製品製造業を対象に～
13	井原 有理	金谷	廃棄物処理施設における廃棄物発電を促進する条件の提案
14	今井 美佳	金谷	スーパー等での行政関与の店頭回収の実施実態と促進案の提案

◆休憩

15	吉光寺 里早	金谷	自治体発行のごみ分別早見表等の内容がごみ分別に与える影響についての研究
16	古山 峻宏	金谷	自動車リサイクル法による解体業者が受けた影響の明確化と改善策の提案に関する研究—関西の解体業者を対象として—
17	村田 志徳	富岡	住宅建築用木材自給の可能性
18	森岡 元気	富岡	廃家電リサイクルにおける「見えないフロー」への対応策に関する研究
19	池山 邑華	小野	東日本大震災における被災地ボランティアの食環境に関する研究
20	長門 剛史	小野	環境保護団体の運動手法分析 —鯨類保護活動におけるメディア戦略の実態—
21	庭本 啓都	小野	滋賀県湖北の野神信仰にもとづく巨木保全の現状と課題

◆休憩

22	松浦 克彦	小野	小島嶼開発途上国における廃棄物分野の環境問題と支援策□ツバル国を対象として—
23	梅原 久奈	高橋	希少な山野草の盗掘対策に関する研究
24	尾上 怜	高橋	自動車の長期利用による環境負荷低減モデルに関する研究
25	橋本 匠太	高橋	近畿大都市圏におけるフェアトレードイベントの企画運営に関する研究
26	入江 総次郎	柴田	環境影響評価審査会の実態と課題に関する研究□審査員へのアンケート調査をもとに—

1月20日(金)

◆10:40～

27	高馬 哲志	近藤	企業が小学校を対象に行う環境学習の問題点と可能性に関する研究□～湖東地区の企業を対象に～
28	小寺 まい	近藤	『蒼玄』を対象とした穀物菜食者のライフスタイルの継続と変化に関する研究
29	橋戸 志織	近藤	地方都市のカフェ・喫茶店を対象としたコミュニティカフェとしての可能性に関する研究 ～滋賀県守山市を対象に～
30	松吉 美佳	近藤	雑誌『婦人之友』における洋裁関連記事の変遷と洋裁の多様性に関する研究
31	宮崎 修平	近藤	著作権に着目した自治体が設定したキャラクターを利用したまちづくりに関する研究
32	小原 久幸	秋山	淀川水系流域委員会における住民参加の方策について
33	柏木 亮佑	秋山	歴史的風致維持向上計画認定市町村における歴史まちづくり部局の再編に関する研究 —金沢市を中心として—
34	竹内 雄一郎	秋山	守山市ほたる条例によるほたる保護区域設定の効果に関する研究

◆休憩

35	西菌 祐介	秋山	防犯まちづくりと地域コミュニティの役割についての研究□—大阪府吹田市を事例として—
36	宮崎 航平	秋山	獣害対策としての放牧ゾーニングの普及に関する研究□—滋賀県での事例を対象として—
37	堀 裕美衣	柴田	環境アセスメントのスコーピング段階における説明会に関する研究
38	皆川 良太	柴田	森林計画策定における市民参加の取り組みに関する研究
39	牧 優理乃	柴田	地熱発電施設建設の合意形成プロセスにおける環境アセスメントの研究

◆教員からの全体コメント

◆閉会

◇注意事項◇

- ◎一人につき発表5分、助言5分とする。
- ◎時間の経過は4分経過で一鈴、5分経過で二鈴として示す。
- ◎発表は要領よく行うこと。時間の超過は許されない。
- ◎次演者は次演者席に着席し、次々演者がタイムキーパーを務めること。